

アユの漁獲状況と資源状況について

1. アユの漁獲状況

- ・12月1日から琵琶湖でのアユ漁がスタートした（エリでのヒウオ漁）。
- ・初日の漁獲量は約1.2トンで不漁であった。
- ・12月1日から漁獲されるようになった平成21年以降の平均値の約6.4トンに比べて18%であった。
- ・アユの産卵が激減したH24年の約1.9トンに比べても62%であった。
- ・その後の漁獲も低調となっている。

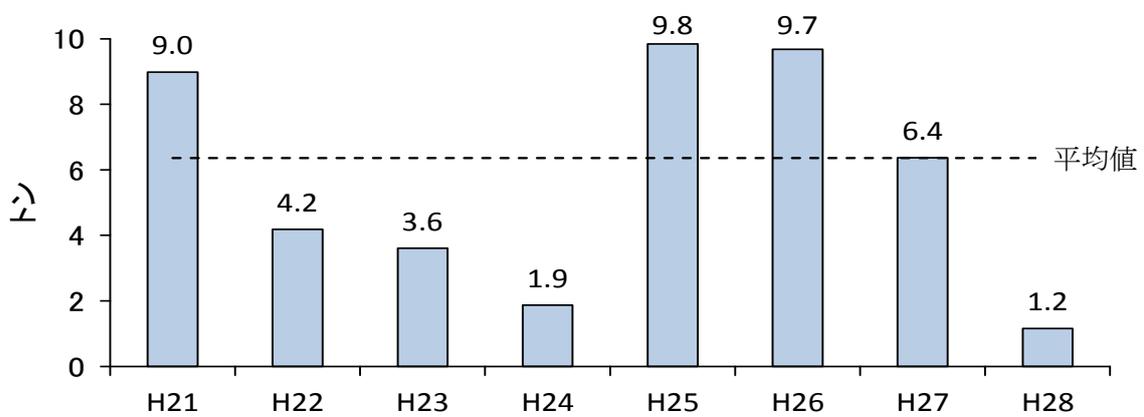


図1 初日のアユの漁獲量(活魚)

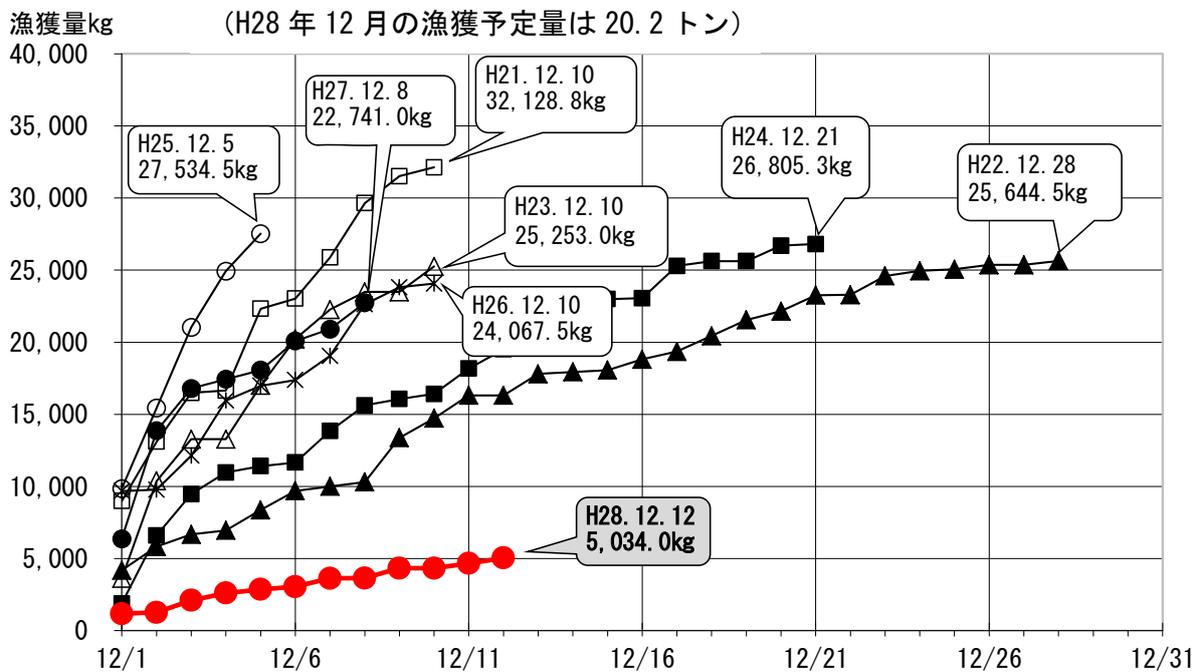


図2 アユの累積漁獲量(活魚)

2. アユの資源状況

(1) アユの産卵量

- ・主要天然河川の産卵量は約 214 億粒で、平年の 2 倍と多かった。
- ・本年は 9 月下旬に産卵が集中しており、例年に比べて産卵ピークが遅かった。
- ・これは 9 月下旬まで少雨により、産卵河川の水量が少なく、水温も産卵適水温 (23℃以下) より高かったため。

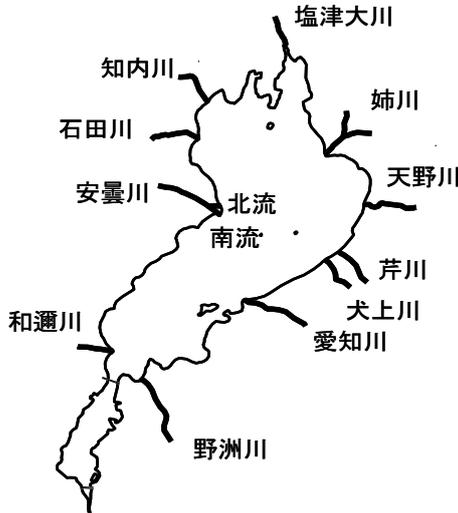


図3 調査河川



写真1 調査風景

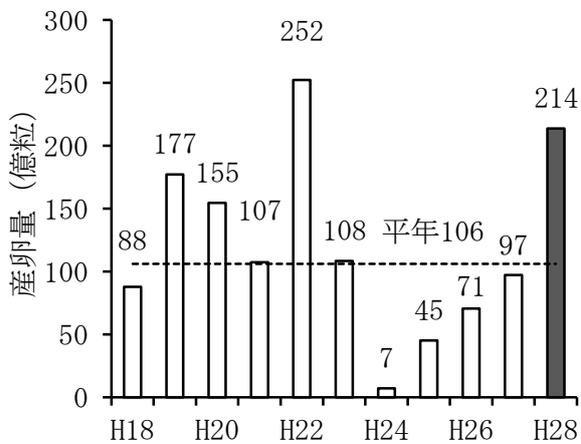


図4 産卵量の推移

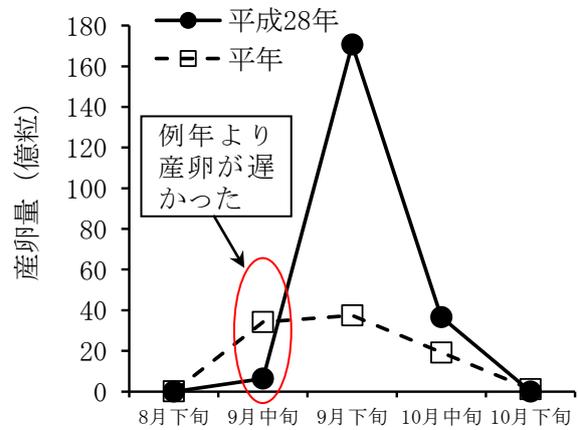


図5 時期別の産卵量

表1 調査河川における卵数の年別比較 (単位: 億粒)

年度	第1次調査	第2次調査	第3次調査	第4次調査	第5次調査	第6次調査	計
	8月下旬	9月中旬	9月下旬	10月中旬	10月下旬	11月中旬	
H18	0.0	61.1	19.1	5.5	2.2		87.8
H19	0	3.5	131.0	31.5	11.4		177.3
H20	0	82.7	57.9	13.1	0.9		154.6
H21	0.4	37.7	9.1	60.0	0.2		107.4
H22	0	9.8	105.6	132.4	4.6		252.4
H23	0	13.4	81.0	13.2	0.8		108.4
H24	0	0.8	1.2	4.8	0.2	0.0	7.0
H25	10.3	32.2	2.5	0.0	0.0	0.0	45.1
H26	0.6	36.6	9.2	24.0	0.2		70.6
H27	0	79.3	15.4	2.1	0.2	0.0	97.1
平年値	0.1	34.2	37.5	19.3	1.2	0.0	106.0
H28	0	6.4	170.7	36.7	0.0	0.0	213.8

(2) アユ稚魚調査での採捕尾数

- ・10月～12月に月1回新月の夜に、アユ稚魚の採集尾数を調査。
- ・10月の採集尾数が平年の13%と少なかったのは、産卵ピークが遅かったため。
- ・11月、12月は平年の2倍以上と多い状況。

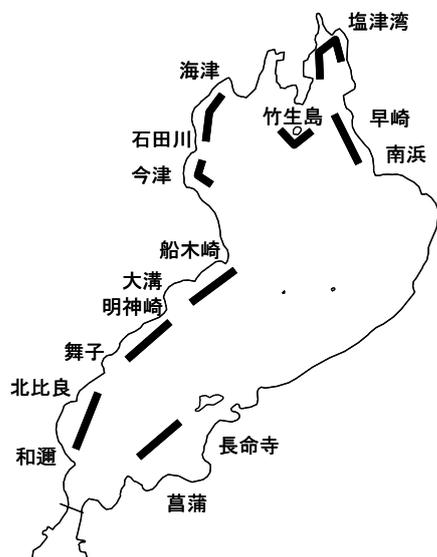


図6 調査水域

写真2 調査に用いる曳網と琵琶湖丸

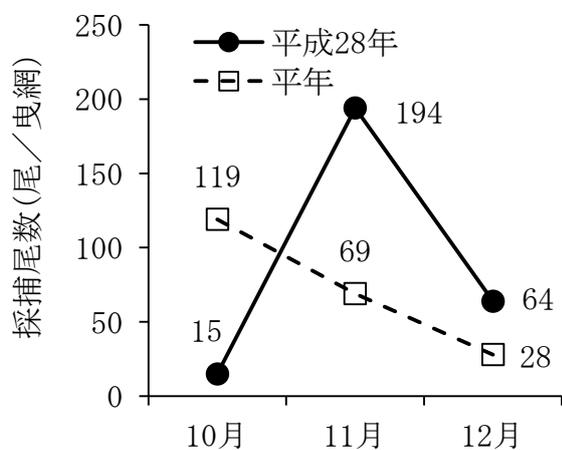


図7 採捕尾数の推移

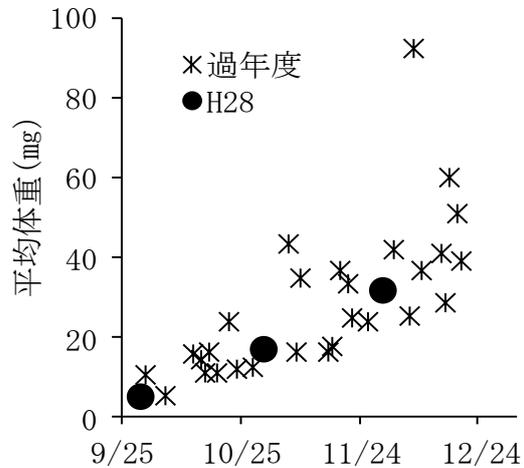


図8 調査日と平均体重の関係

表2 アユ稚魚の採捕尾数

	10月	11月	12月
平成28年	15尾	194尾	64尾
平年値	119尾	69尾	28尾
平年比	13%	283%	231%

3. 現在の不漁の要因

- ・産卵ピークが遅かったため、エリで漁獲されるサイズまで育ったアユが少ないことが考えられる。
- ・また、成長が平年より遅れていることも考えられる。

4. 今後の対応（水産試験場による要因分析・資源評価）

◎底曳網による資源調査。

○餌料生物の状況の評価。

- ・耳石による日齢と成長を把握。
- ・魚群探知機による資源調査を実施(1～8月)。



写真3 アユの耳石